

# 園名 御所市立御所幼稚園

## はばたくなら⑤

自尊感情を高めるために  
 ~「わくわく・トライ・やったー！」  
 とともに輝く保育をめざして~

5歳児 5月~11月

### 取組について

○本園の子どもの姿として、元気で素直であるが自信をもって行動することが少なく、すぐに諦めようとしていたり自分の困っていることを言葉で伝えられなかったり自分で考えてしようとする気持ちが弱かったりした。

○自己肯定感の構築を基盤として

- A. 気持ちを言葉で伝えられる力
- B. 試行錯誤しながらやってみようとする力
- C. 共に助け合い、支え合える仲間づくり

三つのことを育てたいとの願いから、職員間で話し合い自分たちが住んでいる御所市を誇りに思えるように地域力を活用し取組を行ってきた。

○地域力を活用して

- ☆ボランティアさんによる絵本の読み聞かせ・音楽療法
- ☆菜園・栽培・飼育・収穫等の指導
- ☆雅楽鑑賞 等

○園周辺に目を向け、葛城山・鴨都波神社・葛城公園・新地商店街・ごせ町などへ探索に出掛けた。その中で子どもたちの興味、関心が高まった葛城山への遠足・夏まつりごっこに焦点をあて、子どもの経験・体験をもとにチャレンジ精神を養い、共通の目的に向かって取り組む活動や遊びが広がったり深まったりする環境づくりを展開していった。

### 実践事例1

「夏まつり」(鴨都波神社) 7月~10月

環境構成

援助

活動

育ちの捉え

◇子どもの姿  
 ◇ねらい

頑張ればできることでも最初から諦めてしまい、継続してやり遂げることが苦手であった友達と思いや考えを出し合い、工夫したり試したりしながら最後までやり遂げる達成感を味わう

#### 屋台ごっこをしたい(7月~)

#### 看板づくり



ぼくのより、そっちの方がいいな

これで作ってみる?

みんなで  
 のりつけたら  
 早いから  
 一緒にしよ!



この色とこの色あわへんな

鴨都波神社の夏まつりを実際に経験していない子どももイメージを共有できるように、まつりの動画を視聴する

自分の思いを話せなかったり、思いが通らず気持ちが落ち込んだりしている友達の姿に気付けるよう知らせながら、クラス全員が力を合わせて子どもたちで進めていけるようにした

#### 品物づくり

思い思いに好きな材料を使って工夫して作っている



みてみて! とうもろこしできた



なにで作ってるの?

とうもろこしください!



すごーい!!

いらっしやい

友達と一緒に挑戦したり励ましたり、互いに認め合ったりなどしながら、少し難しいことに取り組む楽しさが感じられるように十分な時間を確保する

試行錯誤している時は声をかけず見守り、子ども自らの気付きを待つようにし、繰り返し試すうちに自分で発見したり気付いたり工夫したりする姿を大切にする

自分の思いを出しながら、相手の思いを受け止め折り合いがつけられるようになる

共通の目的に向かって遊びに必要な物作りを進める中で、友達と一緒に取り組む楽しさを味わいながら、自分だけではできないことも助け合えばできる喜びを感じる姿が見られ、仲間意識が育ってきた

#### ススキ提灯をつくろう(9月~)

#### 染め紙づくり

視聴後、屋台ごっこをどのようにすればもっと楽しめるのかを話し合い「ちょうちん あつたらいい」との声が聞かれたので作るようになった



染まってるかな?

色薄いなー

ハーブ



むっちゃいい色でるな

玉ねぎの皮

園で栽培しているハーブを使って染め紙をした経験と、その際見た本での知識を生かせるように様々な染め物に使える材料を身近に用意しておく

イメージを膨らませていけるよう、これまでの活動を振り返ったりヒントを与えたりする

もう少し高くできる?

ここ持ってあげようか?



これぐらいでいい?

運動会で再現(10月)



ソーレソーレ!!

「やってみたい」と思ったことを実現できたことで、達成感や満足感を味わい、更に自分たちでできたという自信につながった

子どもたちが、看板の土台と字の色を同系色や薄い色でかくと見えにくいことに気づき、見やすくするにはどのような色を選ぶとよいかなど、友達と一緒に試しながらか姿が見られた。見えにくいことに妥協せず、もう一度やってみようとする意欲が高まってきた

## 実践事例2

「遠足に行つて」5月末～11月

環境構成

援助

活動

育ちの捉え

- ◇子どもの姿 葛城山へ行った春の遠足では、すぐに疲れた様子を見せ歩くことだけで精一杯となってしまった。しかしロープウェイに乗ったことや、そこから見える景色は印象的だったようで秋の遠足にもう一度、訪れることになった。自分たちが行きたいと思ったことで意欲的になりススキの中の遊歩道を歩き回ったり、木の実や落ち葉を見つけて集めたり、春にはできなかった経験ができた。
- ◇ねらい 共通の目的に向かって友達と一緒に取り組む楽しさを味わう

### 葛城山へ行こう(5月)(10月)

#### 春の遠足



ぼくらの家どこやろー見えるかな？



遠足を終えてからも「楽しかったな」「また行きたいな」などの声が聞かれた

ぼくのお家に届くかな？



#### 秋の遠足

前に来た時なかったのにー



わー!! すすき いっぱい

赤くなってるはっぱ みつけたー!



市の名所でもある葛城山へ行き、自分たちの生まれ育った御所市に関心が深まった

### 遠足ごっこ(10月)

わくわくした経験から友達と工夫しながら、ロープウェイやススキを作り遠足ごっこが始まった

今度はみんなで乗れるおっきいの作ろうよ!

それぞれのイメージしたロープウェイを作ることになった



山頂のポストにはがきを投函し、家に届いた嬉しさから、郵便ごっこに発展した



### 落ち葉集め(11月)

落ち葉を拾って遊ぶ姿から身近な場所に熊手を置いておく

葛城山のはっぱもういっぱい落ちてるかな？

これ遠足の時みつけたなー!



葛城山で落ち葉拾いをした経験から、園庭の落ち葉にも興味をもち、集めるようになった



おばあちゃんーこれではっぱははいてるねん!

ロープウェイを作つて遊んでいた時、運転しにくいことに気付いた子どもたちが話し合い、持ち手を付けることになった。自分たちで遊びを深めていく力が付いてきた

友達と話し合う機会が増え、自分の思いを言葉で表したり友達に聞いてもらったりしながら伝える喜びを味わい一人一人が生き生きとした表情で、主体的に取り組む姿が多くみられるようになった

### (まとめ)

・身近な名所を実際に訪れ自分たちの生まれ育った御所市に関心が深まり、地域の人に見守られている安定感と信頼感が生まれた。

・菜園活動の中で収穫の喜びだけでなく、形や色・匂いなど多くの気付きを認め、身近な自然を遊びに取り入れることで好奇心が芽生え、遊びが深まった。

・自分のよさを認められる経験として、話し合いの場をもち意見を交わす中、友達に「その考えいいやん」と言われて自信が湧き、自分も友達の意見やよいところを聴いたり見たりすることが増えた。そこから新たな挑戦に向かうことで発見や疑問をもち、さらに考えたり工夫したりする姿が育ってきた。

### (成果)

・自分なりに表現することができるよう気持ちに寄り添い、子どもの思いや考えを認め、待つことで徐々に言葉で自分の気持ちを伝えられるようになってきた。

・共通の目的に向かって取り組む活動の機会を増やしていく中で、徐々に自分とは違う思いやアイデアを認め合い、試行錯誤しながら最後まで継続して取り組む達成感と困っている友達に気付き共に考えようとする姿が見られるようになった。

・子どもの思いを捉え、環境を再構成していくことで、遊びの広がりが見られ、その結果自己肯定感が芽生え、能動的に活動するようになった。

### (課題)

・子どもの関心がどこにあるのかを捉える力を付けていくために、自分の視点だけでなく周りの保育者と思いや考えを伝え合いながら子ども理解を深めていきたい。

・コロナ禍のため、様々な活動が制限される状況下において小さいクラスの子どもの思いや気持ちや、年長児としての自覚を十分に育むことができなかった。今後子どもの内面理解と発達に適切な環境構成・援助の在り方を探り子ども・保護者・職員も共に輝けるよう継続していきたい。

一人一人の発想や工夫を認め、自由に表現する楽しさを知らせるとともに、友達の考えや様々な表現方法などに気付けるよう言葉をかける

遊びの目的やイメージを理解し、実現するために必要な材料を用意したり場を一緒に整えたりしていく